

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：茅野 牧夫

事業名 一般国道452号 盤 <small>ばん</small> の沢 <small>さわ</small> 道路・五稜 <small>ごりょう</small> 道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局
起終点 自：北海道 <small>ほっかいどう</small> 芦別 <small>あしべつ</small> 市黄金町 <small>こがね</small> （盤の沢道路起点） 至：北海道 <small>ほっかいどう</small> 上川郡美瑛町 <small>びえい</small> 字ルベシベ（五稜道路終点）		延長 18.5 km
事業概要 一般国道452号は、夕張市を起点とし、旭川市に至る延長約110kmの幹線道路である。 このうち盤の沢道路・五稜道路は、通行不能区間の解消を図り、地域間交流の活性化及び、物流効率化等の支援を目的とした、芦別市黄金町から上川郡美瑛町字ルベシベに至る延長18.5kmの事業である。		
H5年度事業化	H一年度都市計画決定 （H一年度変更）	H6年度用地補償着手
H5年度工事着手		
全体事業費	約466億円 <small>（盤の沢道路：212億円） （五稜道路：254億円）</small>	事業進捗率 9% 11%
	供用済延長	2.6km
計画交通量 4,800台/日		
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 1.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 333/414億円 <small>（事業費：309/379億円） （維持管理費：24/34億円）</small>
	総便益 (残事業)/(事業全体) 487/487億円 <small>（走行時間短縮便益：410/410億円） （走行経費減少便益：66/66億円） （交通事故減少便益：11/11億円）</small>	基準年 平成25年
感度分析の結果		
【事業全体】 交通量：B/C=1.1~1.3（交通量±10%） 事業費：B/C=1.1~1.3（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.1~1.2（事業期間±20%）		
【残事業】 交通量：B/C=1.3~1.6（交通量±10%） 事業費：B/C=1.3~1.6（事業費±10%） 事業期間：B/C=1.3~1.5（事業期間±20%）		
事業の効果等		
事業の必要性及び効果 ①通行不能区間の解消 ・上川中部圏から中空知圏間の所要時間が夏期で21分（冬期は28分）短縮され、道路交通の利便性向上が期待される。 ②拠点空港旭川空港への利便性向上 ・芦別市から旭川空港まで所要時間が短縮され、芦別方面から旭川空港への利便性向上が期待される。 ③交流人口の拡大 ・芦別市から旭川空港までの所要時間が短縮され、旭川空港への利便性が向上することにより、芦別方面における交流人口の拡大及び、地域活性化が期待される。 ④農産物の流通利便性向上 ・上川中部地域と札幌市や苫小牧港との新たな道路ネットワークが形成され、農産品輸送の流通利便性向上が期待される。 ⑤主要な観光地への利便性向上 ・芦別市と美瑛・富良野地域、旭川空港等を結ぶ新たな周遊観光ルートが形成されることで、主要な観光地への利便性向上が期待される。 ⑥災害時の緊急輸送ルートの強化 ・災害時の大規模な迂回が緩和され、迅速な救急搬送や救援物資等の輸送の確実性向上が期待される。 ⑦CO ₂ 排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO ₂ 排出量2,606（t-CO ₂ /年）の削減が期待される。		
関係する地方公共団体等の意見		
地域から頂いた主な意見等： 芦別市など4市2町の首長で構成される「一般国道452号建設促進期成会」等より早期整備の要望を受けている。		

知事の意見：

通行不能区間の解消を図り、地域間交流の活性化及び物流効率化等の支援が図られ、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから、当該事業の継続について異議はない。

なお、事業の実施にあたっては、環境への影響を最小限にとどめること。また、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的に執行し、早期供用を図ること。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・北海道横断自動車道が夕張IC～十勝清水ICまで開通
- ・一般国道38号芦別バイパス、赤平バイパスが全線開通
- ・シーニックバイウェイ北海道「大雪・富良野ルート」指定
- ・富良野・美瑛広域観光圏整備計画認定

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成5年度に工事着手して、盤の沢道路は用地進捗率2%、事業進捗率9%、五稜道路は用地進捗率15%、事業進捗率11%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期開通に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

施設の構造や工法等の変更はないが、引き続きコスト縮減に取り組んでいく。

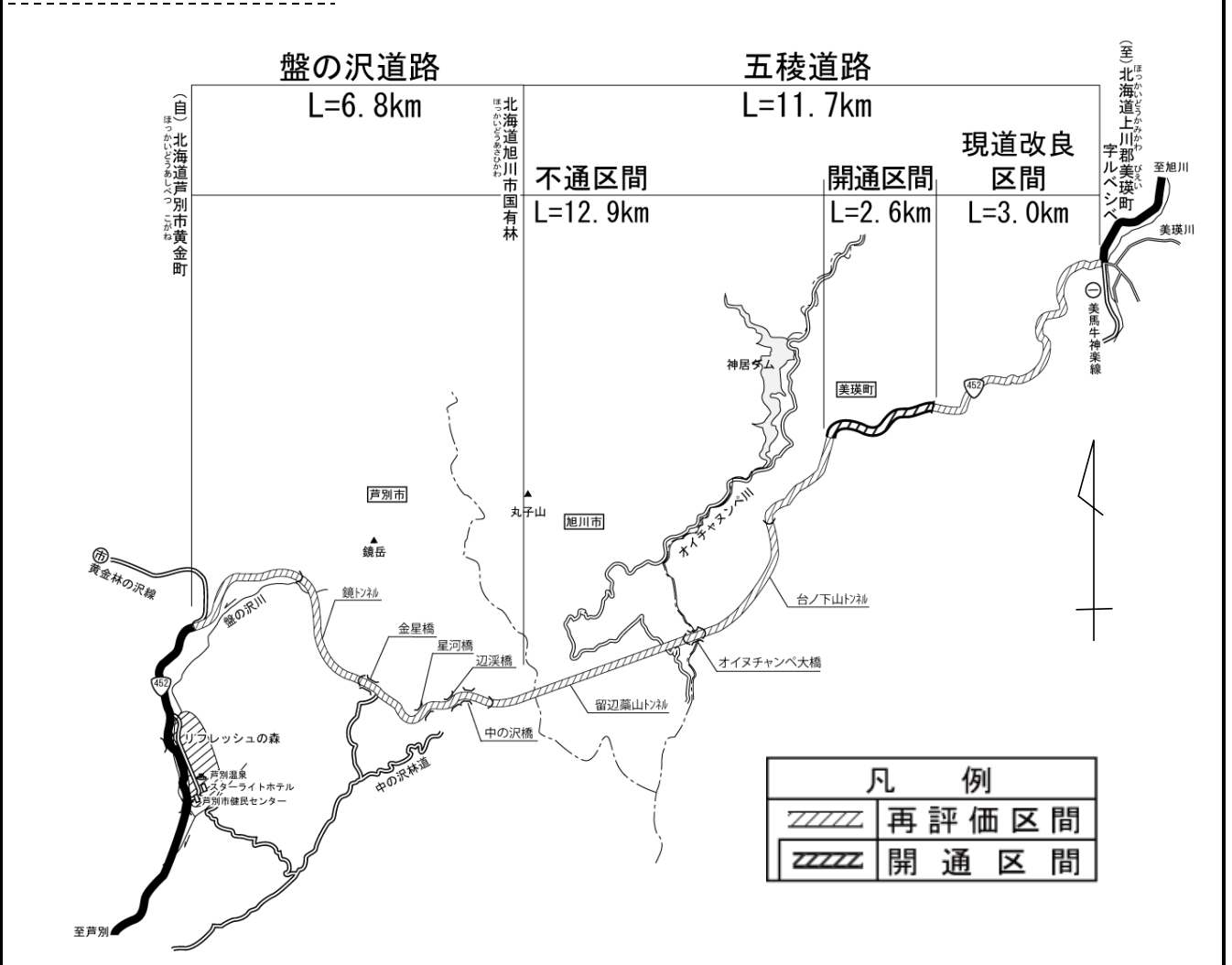
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。